

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第26号 平成20年1月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

病気でなくても訪れたいくなる病院へ

旭労災病院 院長 勝屋 弘忠



登録医の先生方には、日ごろから大変お世話になっておりますことを心から御礼申し上げます。私はこの連携ニュースを先生方と病院との双方向性のツールとしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

ところでご承知のごとく当院は立地条件が必ずしもよくありません。職員もよく地域の方々から「旭労災ってどこにあるの？」と聞かれることがあるとのことです。せっかく先生方からご紹介いただいても、肝腎の患者さん(地域住民の方々)が当院に親しみを持ち、信頼していただかなければ、満足な診療は覚束ないでしょう。そこで住民のみなさんに少しでも当院の存在を知っていただくために、年2回(春の看護週間と秋の医療安全週間)守山区の大型店舗の一角をお借りして、住民の無料健康相談を行っています。また病院のバスも2台のうち1台を新車に入れ替えた際に、親しみやすい黄色の塗装に変えました。もう一台も可及的早期に同じ色にして、あれが旭労災病院のバスだと認識してもらえるようにしたいと思っています。さらに病院の中でもボランティアの方のお力で、定期的に写真展示などを行っていただいております。これに加えて今年度から、暮れには落語会を開き大盛況でした。これからも音楽会も企画するなど、入院患者さんの慰めになるばかりでなく、お近くの住民の皆さんにも気軽に参加していただけるような催しを定期的に行っていきたいと考えております。とかく病院というと、暗く冷たい印象を持たれがちです。しかし、日ごろから地域の皆さんが気軽に集える場所にするので、先生方からご紹介いただいたとき、「ああ、あの病院ですね。」と喜んで受診していただけるようにしたいと考えております。

また先生方との連携を大切にしながら、診療科の充実や機器の更新を通じて、先生方に信頼していただける病院造りに努力してまいります。今後とも、先生方からの率直なご意見ご指導をよろしく願います。

当院における大腸癌術後抗癌剤治療の現状

第三外科部長 高野 学



本邦において大腸癌の罹患率、死亡率は年々増加しています。生活習慣の改善による予防とスクリーニング（住民健診など）の普及による早期発見が必要ですが、現在でも疾病発見時には高度進行癌になられている方も少なくありません。そこで当院の大腸癌抗癌剤治療の現状についてご紹介したいと思います。

大腸癌の化学療法は従来 5-FU を **key drug** として行われていましたが、その治療成績は決して満足できるものではありませんでした。しかし 1999 年にアイソボリン、2005 年にオキサリプラチンが承認され、従来から使用可能であった CPT-11 を併用することにより、高い奏功率を期待できるようになりました。当院の術後 5 年生存率はリンパ節転移のない Stage 0~II までの症例においては 80%以上の生存率が得られております。一方リンパ節転移のある Stage III 症例、腹膜播種、肝肺転移などの遠隔転移を伴う Stage IV 症例では各々 72.7%、35.4%に低下します。このような進行癌症例には大腸癌治療ガイドラインに準拠した治療法を行っております。すなわち肉眼的治癒が得られている Stage III 症例の場合には術後補助化学療法として、内服抗癌剤であるユーゼル+UFT の投与あるいは 5FU+アイソボリン点滴治療を 6 ヶ月間行います。再発、再燃の可能性の高い Stage IV 症例においては現在の **key drug** である 5FU、CPT-11、オキサリプラチンを組み合わせ点滴投与します。

従来の治療法に比べ治療成績は向上したものの大腸癌に対する化学療法で治癒は得られないのが現状です。このため患者さまの QOL を損ねることのないような治療が求められています。当院においても入院治療によって QOL を低下させることのないようにできる限り外来で抗癌剤治療を行う方針とし、本年度から外来化学療法室を新設し 7 床のベッドが稼働しております。

大腸癌に対する有効な化学療法治療は 1999 年以降に始まったばかりですが、本年から更に分子標的薬剤であるアバスチンが使用可能となり治療成績の向上をもたらすものと期待されています。